

1. 医療相談室の体制

本年度もMSW2名体制で業務に携わり、主に回復期リハビリテーション病棟担当を大屋が担当し、亜急性期病床と一般病床を大久保が担当した。本年度中に人事異動が（大久保→熊本病院へ）あり、9月に採用試験を実施し1名のMSW経験者の確保を行った（実質2007年4月採用）。よって、業務の停滞を防ぎ、相談業務の継続をスムーズに行うため、これまでの業務の整理と引継を年度末に実施した。

2. 医療の連携

紹介率の増加に伴い、2005年度は急性期入院加算も算定できていたが、本年度の診療報酬改訂後は廃止となってしまった。地域の医療機関からの紹介件数は、1,356件であり、前年より20件の減少のみで大差はなかった。紹介の特徴として、地域別にみると紹介件数の約80%が大矢野地区の医療機関からの紹介である。又、3つの医療機関からの紹介が全体の63.5%を占めており、広く紹介を受けているとは言い切れず、偏在している点が問題である。今後も地域の医療機関に当院のもっている機能を有効に利用してもらう方策が必要である。

3. 転院援助

転院援助については、療養を目的とした転院が主である。今年度は、療養型の病院への転院が39件、医院への転院が7件で例年と比較すると減少し、施設への転所が20件となっている。徐々にではあるが遠くの病院へ転院するより、「近くの施設」あるいは「自宅で療養する」という方向へ援助できている。今後も「自宅では介護が困難だから・・・病院へ転院させる」という短絡的な援助ではなく、在宅介護サービス、家族・近隣の協力などを含めた支援を調整することで、住み慣れた自宅、地域で安心して生活できる環境作りを構築し、援助していきたい。

4. 相談援助

相談件数の延数は2,476件で前年度に比べて350件程増加している。援助別では医療保障、所得保障、生活環境上の援助の増加が顕著である。医療保障については、高度医療機関（済生会熊本病院・熊本大学医学部附属病院・国立病院機構熊本医療センターなど）からの転入院でMSWや医療連携室などを介しての相談が増えている。又、所得保障については、格差社会の問題が叫ばれて久しいが、当地域でも高齢者のみの世帯で年金生活者が少なくないため、今後も無料・低額診療事業の積極的運用を行う必要があるだろう。そしてホームレス状態の患者や、地域から孤立した独居老人、身内がいな患者など社会的弱者に類する方々が入院され、その援助も積極的に行った。

5. 院外への取り組み

出前健康講座は、年間17回開催した。そのうち三角町のシルバーボランティアの団体から、計8件の依頼があったが、開催の依頼が平日昼間であったためコメディカルを中心に講

座を行った。また、宇土市や上天草市松島町教良木地区での開催など、これまで開催したことがない地区で実施し、地域住民の健康意識向上と当院のPRができたと考える。

院内健康講座は、計7回開催した。院内での講座のためか、様々な広報手段を用いても参加者は減少の一途をたどった。開催方法など課題が残る結果となった。

6. 病院機能評価に携わって

2005年4月より病院機能評価プロジェクトへ参加し、自部署の準備だけでなく院内全体の受審準備を行った。プロジェクトに参加したことで、他の部署の業務内容を知る機会となり、その後の業務で院内の連携がより円滑になったと感じている。今後は、次回受審を視野に入れながら、整備した手順の維持と必要に応じた改定を検討し、患者サービスの向上につなげていきたい。

7. 次年度の計画

次年度は、自部署の基本方針を「初心にかえり、基礎からの展開」とした。特に「事例検討会」「面接に関する勉強会」を定期的の実施し、自部署での業務の質を維持、向上できるよう取り組んでいきたい。また、「病診連携会議」「出前健康講座」「五橋エリアの医療福祉を考える会」などを積極的に開催し、地域との連携体制をより深めていきたいと考える。

転院調整件数

	病病連携	病診連携	その他	合計
2003	48	8	7	63
2004	48	14	14	76
2005	49	10	23	82
2006	39	7	20	66

援助内容別件数

	2003	2004	2005	2006	
医療保障	202	24	33	89	
所得保障		145	211	277	
受診・ 受療援助	転院	465	707	751	716
	その他	0	13	8	8
生活環境上の援助	408	557	1,104	1,441	
その他	2	1	17	29	
心理・情緒的援助	6	5	3	5	
合計	1,083	1,452	2,127	2,565	